

2026「冬号」

JAとよごろ広報誌

煙火

か が や き

vol.229





新年のご挨拶

豊頃町農業協同組合

代表理事組合長 山口 良一

新年、あけましておめでとうございます。

組合員、ご家族の皆さんと共に輝かしい新年を健康でお迎えのことと思います。改めてお慶び申し上げます。

また、日頃より農協事業運営にご理解・ご協力頂き、誠にありがとうございます。改めて感謝と御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、4月の天候不順で春の作業が遅れ、馬鈴薯、ビート、豆類と連続的な作業となりました。

6月、7月と干ばつ、猛暑の影響を受け、小麦は平年以上でありましたが、馬鈴薯、豆類、ビートは平年を下回りました。

一方、酪農・畜産では、一番牧草、二番牧草、デントコーンと収量・品質共に平年以上となり、生乳生産の方は前年を上回り、乳価の値上がりで副産物価格が上がりだしており、昨年より経営は好転しているかと思えます。

しかしながら、原材料価格の高騰が続いており、施設・農機具の値段が跳ね上がっており、今後の営農継続が大変心配されます。干ばつ、猛暑が続いており災害級とも言われております。為替の円安も続いており、食料の安全保障も含めて国には持続可能な農業対策をぜひ講じてもらいたいと思います。

本年も、土作り、基盤整備の大切さは変わりません。町と共に進めて参ります。

今年こそは、安定した天候に恵まれて豊穡の出来秋を目指して役職員一丸となって取り組んで参ります。組合員、家族の皆さんの努力が報われる1年でありますように、ご祈念申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

本年もよろしく
 お願い申し上げます

豊頃町農業協同組合

代表理事組合長

山口良一

専務理事

川口修

総務経済常任委員長

相澤博美

総務経済常任副委員長

井村康広

理事

植村有見

理事

吉田孝

理事

岡光隆司

理事

松崎直弘

代表監事

按田憲一

監事

相澤和幸

常勤監事

和田宏樹

常務理事

門邦彦

外職員一同

本年もよろしく
お願い申し上げます

豊頃町農業協同組合



令和8年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

代表理事会長 樽 井 功

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先から天候に恵まれ、各作物の生育は全般的に平年よりも順調に推移しておりましたが、道内の広範囲において被害が発生した夏場の記録的な豪雨や干ばつにより各作物等の収量および品質に影響が出た一年となりました。

近年、気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、円安基調の継続や国際紛争等に起因する資材価格の高止まりが農業経営に大きな影響を与えており、農業・農村を取り巻く環境は大きな変革期を迎えております。

この様な状況の中、昨年7月に実施された参議院議員選挙において、組合員・JA役職員をはじめとする多くの皆様のご支援をいただき、全国農業者農政運動組織連盟が推薦した東野ひでき氏を国政に送り出すことができました。

この一步を重要な礎とし、改正基本法により基本理念として位置付けられた、国民一人一人の食料安全保障の確保や環境と調和のとれた食料システムの実現、持続可能な北海道農業の確立に向けて、組合員・JAの声を国政に届ける活動を継続していきます。

JAグループ北海道は、今後とも組合員との対話活動を一層強化し、協同組合の理念と精神を組織結集力につなげ、組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整え、「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」の実現に全力で取り組んでまいります。

結びになりますが、本年は午年です。午年はエネルギーと行動力が高まり、挑戦や成長の機会が得られる年とされています。この謂われにあやかり、本年が北海道農業の更なる飛躍の年となることと、皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。





年頭にあたり



生き甲斐部
部長
永原 初男

新年明けましておめでとうございます。
組員、生き甲斐部の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年中は、生き甲斐部の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は夏の猛暑と雨不足の影響を受け、生産者の皆様には大変なご苦労があったことと思います。また物価高騰が続き、私たちの生活にも不安の多い一年でした。そんな中、ワールドシリーズで活躍した大谷翔平選手らの姿は、私たちに大きな感動と勇気を与えてくれました。

おかげさまで生き甲斐部の事業も順調に進み、秋季研修旅行では震災被災地の復興状況を目にし、改めて今の生活の有難さを実感いたしました。

本年も世界情勢の不安が続くと予測されますが、天候に恵まれ、農産物が豊かに実る良い一年となることを願っております。生き甲斐部では、新年会、組合長杯ゲートボール大会、総会などを予定しておりますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。また新規の入部も心より歓迎いたします。

最後になりますが、本年も皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げ、皆様のご健康とご多幸を祈念し、新年のご挨拶といたします。

J A 豊頃町生き甲斐部

部長 永原 初男

副部長 渡部 健一

外役員一同



女性部
部長
相澤 賀南子

新年明けましておめでとうございます。2026年頭にあたり、皆様が健やかに新年を迎えられた事を心よりお慶び申し上げます。また、日頃より女性部活動に対しましてご理解・ご協力を頂き誠にありがとうございます。

昨年の産業まつりでは、繁忙期にも関わらず例年以上の方々にご協力を頂き無事に終えることが出来ました。また、新たな取り組みとして、

J A 幕別町女性部との交流会でも多くの方々に参加していただきありがとうございました。1月末には3部会合同交流会を控えていますので皆様のご参加をお待ちしております。

物価高騰、温暖化による異常気象など農業を取り巻く環境は厳しい状況ですが、女性部の活動が少しでも皆様の活力となる場を目指し、より良い女性部を作っていけたらと思っております。

最後になりますが、皆様そしてご家族のご多幸、ご健勝を祈念致しまして年頭の挨拶と致します。

J A 豊頃町女性部 部長 相澤 賀南子

副部長 按田 成子

副部長 永原 希美

監事 永原 いと

監事 森 たみ子

すみれ部会 部会長 加藤 京子

ミセス部会 部会長 安藤 千里

フレッシュミズ部会 部会長 坂口 かな恵

外役員一同



青年部
部長
村上 剛丸

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。また、日々の青年部活動において格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年は例年同様、食育や各種祭りへの協力、研修や交流会など様々な活動に取り組んで参りました。

3年ほど前から始めた青年部での製品開発も、その取り組みの一つで、盟友や各関係機関との協議を重ね、製品化することが出来ました。完成した「あずき茶」は町内外での販売や、ふるさと納税への登録をしています。十勝大会や茨城での北海道フェアなど、様々な場所でのPRを行い、知名度向上にも力をいれていました。

これらの活動の一方で、近年は盟友の数が減少傾向で、活動の担い手が限られてきているという、組織としての課題もあります。今後も盟友減少に負けることなく、前向きに活動を継続し、地域貢献や盟友の成長につながる取り組みを大切にしていきたいと考えています。

最後になりますが、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

J A 豊頃町青年部 部長 村上 剛丸

副部長 井下 慎吾

書記長 加島 知典

畑作部会長 岡 光祐樹

畜産部会長 門 伸洋

外役員一同

乳牛改良同志会 婦人部視察研修



12月2日から3日にかけて、美瑛町の株式会社ベイリッチランドファームにおいて視察研修を行い、乳牛改良同志会婦人部4名が参加しました。

株式会社ベイリッチランドファームは飼養頭数搾乳牛240頭、育成牛260頭、耕作面積120haを有する牧場で、出荷乳量は2025年実績で約3,000トンのメガファームです。

牧場では酪農教育ファームとして、主に小学生を対象に牧場体験学習の受入を積極的に行っているほか、乳牛改良としてハイインデックス種雄牛を8頭輩出、ハイゲノム牛からの採卵、OPUを積極的に移植するなど、酪農業界への理解啓蒙や先進的な取り組みを行っています。また共進会にも積極的に参加しており、2025年には全国共進会にも出場しています。

今回の視察研修では歴代の繋ぎ牛舎やフリーストール牛舎、ロボット搾乳などの施設を中心に見学しました。

種子馬鈴薯生産組合 道内視察研修

12月4日から5日にかけて、種子馬鈴薯生産組合14名が札幌市の農研機構 種苗管理センター北海道中央農場の研修に参加しました。

同農場では主に原原種の生産と育種中の品種の無病化確認検定を行っています。

原原種の育種では、地下茎に直接養液を噴霧するエアロポニックス手法でミニチューバーを採種しており同手法では、一般的な増殖が1年で10倍であるのに対し、20倍の増殖が可能です。その他、ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性品種の急速普及や種芋の抜き取り作業に資するAIの教師データの作成等を行っています。

また、近年課題となっている生育後半から収穫期の高温対策として地表からの深度の違いによる地温のモニタリング、地中温度の上昇を防ぐための培土量の増加、品質悪化を防ぐための収穫直後の風乾と冷蔵貯蔵を実施しています。

生産者一同、講師の話に真剣な眼差しで聞き入り、非常に有意義な研修となりました。



公共牧場 一斉下牧



10月23日から30日にかけて町内の酪農家からの預託牛（乳用牛）をトイトツキ牧場・湧洞牧場・二宮牧場から下牧しました。入牧時には小柄だった牛たちも、広大な牧場で牧草をたっぷり食べ、見違えるほど大きく成長しました。これから各酪農家の元で生乳増産のために大活躍してくれることでしょう！

たくさん飲んでね!

11月15日から16日にかけて、よつ葉乳業は東京都恵比寿ガーデンプレイス内のアンテナショップ「よつ葉ミルクプレイス」において消費拡大イベントを開催し、豊頃町から津久井優子さん、武野里奈さんが参加しました。

会場では牛乳の飲み比べ体験、模擬牛による搾乳体験、酪農家によるトークショーなどを催し、津久井さん、武野さんはイベントを通してたくさんの来場者に乳製品の消費拡大を呼びかけました。



東北の味覚と文化を満喫

生甲斐部

11月25日から3泊4日で開催した研修に12名の部員が参加し、岩手・宮城・山形と東北方面を巡りました。

初日は、平泉の世界遺産・中尊寺をガイド付きで見学し、歴史や文化財の価値について学びました。宿泊先の南三陸ホテル観洋は、東日本大震災で多い時には600名もの被災者を受け入れ、現在も震災を風化させないためにスタッフが町をバスで案内する『語り部バス』を運行しています。露天風呂から眺める太平洋の絶景と、夕食の焼き鮑や蟹と雲丹の混ぜご飯が特に絶品で大満足でした。二次会のスナックでは、貸し切り状態のステージで気分よく歌いました。



2日目は、予定を変更して南三陸町震災復興祈念公園を訪れ、災害当時のまま保存されている防災対策庁舎や復興のシンボルであるモアイ像を近くで見学。改めて自然災害の恐ろしさや、復興に向けた地域の想いについて学ぶ時間となりました。この日は小雨がぱらつく生憎の天気でしたが、観光船での松島島めぐりや宿泊が叶わなかった銀山温泉の街並みを散策しました。

3日目は、最上峡舟下りで雄大な自然を約1時間満喫しました。民謡No.1の船頭、岸さんの舟唄と、船底に石が当たる音や揺れを名物の味噌まんじゅうを食べながら楽しみました。その後訪れた山形のファーマーズマーケットでは、地元の特産品を購入。今の時期はう・フランスやマスカットなどが並び、30分と短い滞在時間でしたが、それぞれ無事に発送手続きを済ませてバスに戻ると、添乗員も買い物の早さに驚いていました。

最終日は、連日の疲れが出たのか予定していた仙台朝市へは行かず、ゆっくりホテルを出発して仙台北城跡（青葉城址）へ。青葉城資料展示館で20分ほどのCGシアターや展示品を見て回り、最後に鐘崎笹かま館でもお土産を購入。隣接する七夕ミュージアムには時間の都合で立ち寄りませんでしたが、充実した研修を締めくくることができました。今回の研修を通して、東北の歴史や文化、復興の歩み、そして地域の魅力に触れる貴重な機会となりました。

女性部の窓

大津小学校 食育授業

11月10日、豊頃町女性農業委員3名とJA豊頃女性部役員3名（部長 相澤賀南子）計6名が講師として大津小学校を訪問し、調理実習を行いました。

毎年小学校を訪れ、子供たちと共に「作る・食べる・片付ける」を体験しながら、食の大切さについて楽しく学ぶ食育授業を行っています。今回のメニューは、シチュー・春雨サラダ・スイートポテトの3品です。生徒13名を3つのグループに分け、協力しながら調理しました。毎年の実感として子供たちは手際がよく、野菜の皮むきや切る作業がとても上手で、「日頃からお家でお手伝いしているんだなあ」と感心しました。中には「昨日、お母さんとロールケーキを作ったの」と話す子がおり、驚く場面がありました。怪我もなく無事に調理を終え、体育館に場所を移動し日直の「いただきます」の掛け声で試食がスタート。今回は青年部が作ったあずき茶も一緒に提供し、子供たちからは「おいしい」と、シチューとともにお代わりをするほど好評でした。

作った料理はほとんどなくなり、農業委員・女性部役員一同ホッと一安心。最後に相澤部長より「皆さんと楽しく作ることができてよかったです」と挨拶し、食育授業は終了しました。



ミセス部会 私たちも知らなかった



11月11日、ミセス部会（部会長 安藤千里）12名で日帰り研修を実施しました。

今回は、農協記念館とよつ葉乳業株式会社十勝主管工場の2か所を見学しました。

午前中は、士幌にある農協記念館へ。士幌農協の歴史や事業、士幌農協を築いた太田寛一氏の功績などを展示しており、幅広い分野で活躍された姿に、部員一同「すごい人だね」と感嘆の声があがりました。昼食は士幌の道の駅でしほろ牛を堪能しました。

午後のよつ葉乳業株式会社の見学では、参加者がJA関係者ということで、一般見学では立ち入ることのできない検査室も特別に案内していただきました。担当者の宮本さんによるわかりやすい説明に、みんな「へえ」「そうなんだ」「知らなかった」と驚きの声が続ぎ、ここでも太田寛一氏が重要な役割を果たしていたことを知ることで、学びと発見の多い、非常に充実した研修となりました。

すみれ部会 ゆつくり疲れを癒しました

すみれ部会（部会長 加藤京子）は、11月17日から1泊2日で網走・北見方面を訪れました。

今回は、「農作業が終わったら温泉に行きたい」という部員の声から実現し、17名の部員が網走の温泉で日頃の疲れをゆつくりと癒しました。網走といえば「網走監獄」です。広い敷地をくまなく見るにはとても寒く、足早に集合場所へ集まると予定より早くホテルにチェックインしました。あいにく露天風呂は

工事中で入ることはできませんでしたが、大きなお風呂が3つある大浴場にみんな満足しました。

夕食後、ロビーで田村まさかショーが行われ、オカリナとピアノ演奏に酔いしれました。翌朝は一面銀世界。雪がちらつく中、北見のハッカ記念館を見学し、ハッカの蒸留場に広がる爽やかないい香りに癒されました。

2日間ともあいにくの天候でしたが、おいしい料理と温泉に恵まれ、充実した研修となりました。



フレッシュミズ部会 遅めの研修旅行

フレッシュミズ部会（部会長 坂口かな恵）は11月27日から28日にかけて、管外研修を実施しました。

当初は5月実施の予定でしたが、学校行事と重なり延期。6月も運動会などいろいろな学校・保育所行事と重なり、思い切って農作業が終わる11月に行こう！となりました。しかし、そこでもまた恐れて

いたインフルエンザが猛威を振るいだし、次々に学級閉鎖。「あー今年はいけないかも」と役員の間で不安が広がっていました。当日はキャンセルが出たものの、なんとか部員7名で砂川市のSHIROを訪問することができました。工場に入ると心地よい香りが漂い、参加者は「いい香り」「癒される」と乙女ごろころを刺激され、自分の好きな香りを選んで香水作りを体験できるブースに向かう部員がいました。子どもたちは黒板になっている壁にチョークでお絵描きしたり、絵本を読んだりと大人も子どもも楽しく過ごしました。2日目は、2班に分かれて自由行動をし、みな、両手いっぱいにお土産を抱えて帰路につきました。



JA幕別町女性部と交流しました!!

12月5日、女性部（部長 相澤賀南子）は初の試みで、隣町のJA幕別町女性部とのスポーツ交流会を開催しました。JA幕別町から15名、JA豊頃町から21名の総勢36名が参加し、札内スポーツセンターでモルックとボッチャを通じ、心地よい汗を流しました。交流を深めるため、同年代ごとにチームを編成し、全8チームで競技を実施。参加者全員に豪華景品を用意しました。各チーム「はじめまして」「よろしくね」など声をかけあい、競技が始まると初めての交流とは思えないほどハイタッチや抱擁を交わして、息の合ったプレーを連発しました。その後の昼食懇親会では交流会と同じチームでテーブルを囲むとさらに交流が深まり、「また一緒に交流しましょう」と別れを惜しみながら解散しました。



モルックミニ大会



12月8日、フレッシュミズ部会（部会長 坂口かな恵）は、ひだまり館においてモルックミニ大会を開催しました。今回はフレッシュミズ部会に興味を持ってもらうことを目的に青年部の奥さんを中心に声をかけ、7名の未加入者が参加しました。部会員からも13名参加し、総勢20名に豪華景品を用意し、チーム対抗モルック大会が始まりました。始めはごちない参加者もスポーツの力を通してあっという間に打ち解け、「やったー!」「惜しい!」と盛り上がりしました。

終始笑い声が絶えず、交流時間は、あっという間に過ぎ「みなさん楽しんでいただけたでしょうか？是非興味があれば入部して下さい。」と坂口部会長の挨拶で大会を終りました。

女性部創立70周年 記念誌ができました

JA豊頃町女性部創立70周年を記念して、11月21日に記念誌を発行致しました。

記念誌発行のご報告と寄稿のお礼を兼ね、記念誌実行委員が按田町長、山口組合長を訪問しました。平成26年から令和6年の女性部活動を振り返りながら、ご家族やご友人とぜひご覧ください。



J A十勝青年部大会で あずき茶をP R

エネルギー
青年部

JA YOUTH

11月25日、帯広市内のホテル日航ノースランド帯広で開催の第50回 J A十勝青年部大会に部員10名が参加しました。

十勝大会は十勝管内の盟友約500名が一堂に会し、活動実績発表や各青年部の作成した30秒間CMコンテスト、講演会、純農 B o y コンテストを行います。

基調講演には頼レバンが北海道の折茂武彦氏が登壇し、自身のこれまでの成功経験などを基にした貴重な講話を披露しました。

今年度は初の試みとして立食形式での懇親会となり、盟友同士が絶えず交流を深めました。また各単組が開発した商品を紹介するP Rブースでは、豊頃からあずき茶を出品し、たくさんの盟友が試飲しました。懇親会の途中にはアームレスリング大会を開催し、豊頃からは岡光祐樹さんが出場。決勝戦まで進出しましたが惜しくも敗退しました。純農 B o y コンテストには小澤望生さんが参加し、グランプリは逃しましたが会場を沸かせました。



青年部、管外研修へ



青年部員20名は12月5日から6日にかけて管外研修を開催し、江別市のヤンマーアグリジャパン株式会社、札幌市の雪印種苗株式会社を訪問しました。

ヤンマーアグリジャパンでは、自動操舵システムの説明を受けた後、農業機械を視察見学し、雪印種苗では、緑肥を活用した土づくりについて受講しました。

研修先では、部員一同真剣な眼差しで興味津々に話を聞く場面が多く、有意義な研修でした。

丹精込めて育てたさつまいも、社会福祉協議会へ



10月14日、青年部はJA食育園場で収穫したさつまいも約20kgを豊頃町社会福祉協議会へ提供しました。当日は青年部を代表し、村上部長が協議会事務所を訪問。加藤会長へ大きく育てたさつまいもを渡しました。提供したさつまいもは10月25日に開催したふれあいフェスティバルの「おやつ処」で焼き芋として使用し、来場者へと振舞いました。



珍プレー好プレー続出の異業種交流会

11月15日、農協青年部・農協職員組合の共同開催によるスポーツ交流会を開催し、町内団体から総勢43名が参加しました。

参加者は4チームに分かれて大縄跳び、ぐるぐるバットリレー、玉入れ、綱引き、おたまりレーの5種目で競い合い、各チーム協力し合いながら懇親を深めました。MVPには庄司和也さん（商工会青年部）、能本菜々花さん（農協職員組合）を選出し、大盛り上がりそのまま懇親会へ。

続く懇親会でも終始笑いが絶えず、各団体間の交流がますます深まり、次回開催が大いに期待される交流会になりました。



色々な顔がずらり！ハロウィン2025

10月6日、今年も青年部が育てたハロウィンカボチャを飾り付けし、町内の保育所と小学校の4箇所に設置しました。

青年部員がデザインしたカボチャには個性的なキャラクターが描かれ、多種多様な顔をしたカボチャに子どもたちは大変喜びました。



家庭介護教室

11月21日、JA健康寿命100歳プロジェクト対策協議会主催による家庭介護教室をwebにて開催しました。今回の研修内容は以下の通りです。

『介護しない・されない』暮らしを目指して

～フレイル予防の知恵～

講師／JA北海道厚生連 帯広厚生病院健診センター看護科長 佐藤由佳氏

☆平均寿命と健康寿命

健康寿命…健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

平均寿命…日本は男性81.09歳、女性87.13歳

☆「フレイル」ってなに？

加齢に伴って、筋力や認知機能など心身の機能が徐々に低下し健康と要介護状態の間にある状態

☆フレイルの3要素

- ①身体的フレイル：低栄養
- ②精神的・心理的フレイル：認知機能低下・うつ病
- ③社会的フレイル：閉じこもり・孤食

☆今日からできる！フレイル予防と対策

- やっぱり運動が大事！⇒片脚立ち・スクワット
- そして食事でも大事！⇒毎食「たんぱく質」を取り入れる
- 「メタボ」「やせすぎ」も要注意
- 歯だって大事！！
- 「みんなと一緒に」が大事！
- ⇒1日1回以上は、外に出ましょう
- ⇒週に1回以上は「人」との交流をもちましょう

これからも
皆さんが元気で充実
した生活がおくれ
ますように…

『受けよう！乳がん検診』

講師／JA北海道厚生連

帯広厚生病院乳がん看護認定看護師

河合美紀氏

Q. 女性のがんの中で一番多いがんは？

乳がん 9人に1人

Q. 乳がんになりやすい年齢は？

40代から60代

罹患数は30年で約5倍に増加しており、全国推計値で約9万5千人

Q. 乳がんになったらもうおしまい？

乳がんは早期発見が大事です。唯一自分でがんがわかります。

乳房を意識する生活習慣

(ブレストアウェアネス)

①自分の乳房の状態を知る

②乳房の変化に気を付ける

③変化に気が付いたらすぐ医師に相談する

④40歳になったら、2年に1回乳がん検診を受ける

近年男性も乳がん罹患が増えております。
男性もぜひ乳房を意識してみてください。

11月25日、本組合では消防計画に基づき、職員を対象とした防災訓練を実施しました。

当日は豊頃消防署より4名の講師を招き、まずは火災発生時の対応や、災害や緊急事態において、個人や社会がどのように備え、対応すべきかを示す基本的な概念である「自助・共助・公助」について講義を受けました。その後は屋外に移動し消火器放射体験、テント内に煙を充満させて火災発生時の視界が悪い状況を再現した避難訓練や、本所に設置している消火栓を使った初期消火訓練も行い、実践的な技術を確認しました。

今回の訓練を通じて、防災に対する知識と対応力を改めて高めることができました。

職員防災訓練を実施しました



今月の一枚

豊頃町農協職員組合
冬季交流会を開催しました

